



DAIHATSU

ダイハツ工業株式会社

Kaggleへの挑戦 | Challenge to Kaggle

2027年度までに 3,000人を目指して

ダイハツ工業は、「人にやさしい、みんなのデジタル」をスローガンに、
2027年度までに3,000のDX人材育成に取り組めます。

DXビジョンとロードマップのもと、
学びの機会やAI活用の幅を広げながら現場での挑戦を後押し。
お客様への新たな価値創出と、働きやすい組織づくりを進めています。

世界最大級のデータ分析・AIコンテスト。世界中の参加者が、用意されたデータをもとに予測や分類などの課題に挑み、分析結果の精度を競います。実務に近いテーマが多く、初心者から経験者までが実践を通じてデータ活用やAIのスキルを磨けるのが特徴です。コンペの成績に応じてブロンズ／シルバー／ゴールドのメダルが与えられるほか、上位入賞者には賞金が授与されます。実績の積み重ねによってExpert、Master、Grandmasterといったランクにもつながります。

ダイハツでは、独自の社内コンペを年4回開催しており、これまでの実施回数は21回に上ります(2026年3月時点)。参加者は、外部有識者が提示したテーマに基づき、データ分析課題に挑戦します。期間中に開催される勉強会では、分析手法やアイデアを共有しながら、AIやデータ活用のスキルを高めています。

Kaggleの社内コンペに参加してよかったこと



Y.Tさん

Pythonの知識がしっかり身につきました。AIの仕組みを理解する入口にもなって、その後に受けたG検定の勉強にも役立ちました。



Y.Hさん

Kaggleにはある意味で“答えがある”ところがおもしろいんです。こういうデータを扱うときは、こんなプログラムを書けばモデルが作れて予測ができるんだ、という流れを実際に体験できたのが良かったです。



A.Sさん

データの型を決めてためていくことこそがDXの基本だと考えていますが、その考え方は、Kaggleを通じて自然と身につきました。今の仕事の基礎にもなっていますね。



K.Oさん

Pythonコーディング、EDA、可視化、機械学習モデルの知識などを磨くことができ、DX部署への異動にも繋がりました。また、ある程度の機械学習に関する説明や教育ができるようになりました。



T.Aさん

社内コミュニティを通じていろんな人とつながれたことが嬉しかったです。共通の課題に向かっていっしょに頑張る場ってなかなかないので、とても貴重な機会だったと思います。



H.Kさん

Kaggleへの参加をきっかけにG検定を受験し、無事に合格できました。基本的なpythonコード記法は理解できたと思います。また、部署の中でもAI関連の業務を任せてもらえるようになり、実務に繋げることができました。



K.Iさん

AIや機械学習への理解、解像度が上がりました。コーディング力はまだまだですが、Pythonへの理解は進みました。また、各回ごとに出题者が難易度を変化させてくれているので、初心者から上級者まで楽しめるようになっているのが良いですね。



N.Kさん

同じグループで作ったアプリについて、機械学習モデルの運用(MLOps)部分を自ら引き受けて担当することができました。コンペにおいては、Teams内で積極的な情報交換が行われている点が良いなと思っています。



インタビュー 01 リソース管理部 ものづくりDX推進室 | K.O.さん

— 昔から、デジタルや最先端技術といったところに関心があったのでしょうか？

そうですね、デジタル領域にはずっと興味がありました。中学生の時に初めてパソコンを買ってもらいました。当時はゲームを買うお金がなかったので、ベーシック言語を使って自分でプログラムを打って、キャラクターが動くような簡単なゲームを作っていましたね。

社会人になってからは、金型設計の仕事を20年以上続けてきました。当時からCADやCAEといったデジタル技術はあって、最先端のツールを使わせてもらっていたのでそうした技術にはずっと興味を持っていました。



— そこからKaggleに挑戦することになったのは、 どういうきっかけがあったのでしょうか？

転機になったのは、3~4年前に参加したトヨタグループのSQC研究会です。統計学をテーマにした内容だったのですが、そこで「これからはAIや機械学習の時代だ」という話を聞いて、私自身もそうだろうと感じました。

そこからしばらくは本を読んで勉強してみたのですが、正直なところやっぱり本を読むだけではなかなか理解が追いつきませんでした。そんなとき、技術研究会で「機械学習をみんなで学ぼう」という動きがあったのです。誰かといっしょに取り組めば、教えてもらえることもあるんじゃないかと思って、社内のKaggleコンペに申し込んでみたという流れです。

— 社内コンペでは何度か1位を獲得されていると聞きました。 秘訣はあるのでしょうか？

社内コンペ以外にも、オープンコンペといって世界中で開かれているコンペがあるのですが、そういうのにも積極的に参加して情報をキャッチアップしています。こういう手法が効きそうだなというのはブックマークしておいて、次のコンペで使ってみようかと考えたりしています。あとは純粋に興味のような感覚なので、夕飯を食べながら左手でKaggleに取り組むこともあります(笑)。仕事が終わったら、寝るまでKaggleをしています。やっぱり楽しむことが一番かなと。

— Kaggleのどんなところが楽しいですか？

一番楽しいのは自分の工夫が順位に反映されて、リーダーボード(ランキング表)を駆け上がっていくところですね。Kaggleをやっている人たちは、このリーダーボードを駆け上がっていく部分に魅力を感じている方が結構多いみたいですね。コンペの期間は大体2~3か月くらいあるのですが、その間やり続けられるのは、毎日順位の変化を見られるからなのかなと思います。



これまでいろんなゲームをやってきて、麻雀が一番頭を使って運も使って、バランスの良いゲームかなと思っていたのですが、Kaggleもそれに匹敵するぐらいおもしろいなど。運だけだとつまらないじゃないですか。頭だけだとちょっとしんどい。その両方がほどよく絡み合っているところがKaggleの魅力なのかもしれません。



— これからKaggleを始めようとしている方々にメッセージをお願いします。

一見すると難しそうに見えるかもしれませんが、フローに慣れてしまえば簡単なので、そんなに構える必要はないと思います。毎回少しずつ工夫しながら提出していくという流れなので。今は生成AIも発達していますし、まずはチャレンジして、続けてみるのが大事だと思います。続けていくうちに、見えてくるものがきっとあるはず。始めないと、何も始まらないので。ぜひ挑戦してほしいですね。



インタビュー 02 滋賀工場第1製造部 UE課 | D.Kさん

Interview

— Kaggleに参加した経緯を、当時の仕事の状況を含めて教えてください。

私は、当時から設備の異常を未然に察知する「予兆保全」をテーマに、データを活用した分析に取り組んでいました。そんな中でPythonの学習を進めていた時期に、社内コンペの案内メールが届きました。

Kaggleは、日々取り組んでいた学びを“実践の形”で試せる場だと感じ、まずは軽い気持ちで参加してみました。実際に取り組んでみると、データの解析や工夫がそのままスコアとして返ってくるのがおもしろく、今では純粋に楽しいという気持ちで続けていますね。

— これまで参加されたコンペの中で、特に印象に残っているものは何ですか？

特に印象に残っているのは、2023年9月に実施された、社内ですべて初めて生成AIを取り入れたコンペです。当時は、国内では生成AIがまだそれほど普及しておらず、情報を探しても英語の資料が中心でした。そうした状況の中で、生成AIの基礎から応用までを体系的に学べたことは大きな収穫だったと感じています。

扱ったデータは他の多くのコンペと同様に表形式で、4択問題のテキストデータが中心でした。分析にあたっては、問題文が日本語、選択肢が英語という構成だったため、まず日本語から英語への翻訳を行い、その後当日共有されたサンプルコードを参考にしながら処理を進めました。このコンペで試した手法は、自部署でのAIシステム構築にもつながり、実務への応用を意識するきっかけにもなりました。



— 構築されたAIシステムとはどのようなものですか？

設備保全の業務は一般的な情報が少なく、基本的には自分たちが保有している資料を一つひとつ参照しながら対応する必要があります。しかし実際には、取扱説明書やマニュアルが複数の場所に散在しており、資料を見つけられてもそこから目的の情報にたどり着くのが難しいという課題がありました。その結果、必要な情報を十分に特定できないまま対応せざるを得ず「とりあえず部品を交換する」といった判断になってしまうケースも少なくありませんでした。



そこで、設備の取扱説明書や各種マニュアルをあらかじめAIに読み込ませ、質問を投げかけると関連情報を要約して返してくれる仕組みを構築しました。たとえば「この設備の、このアラーム番号は何を意味しているのか」と質問すると、AIが社内の関連資料を横断的に参照し、内容を整理したうえで回答してくれます。イメージとしては、社内資料に特化したChatGPTのような存在です。

このAIシステムの導入により、情報を探し回る時間が大幅に短縮され、よりの確でスピーディな判断が可能になりました。

— ダイハツの社内コンペの良いところを教えてください。

社内コンペの課題は社外に比べると比較的易しく、表記も日本語であるため初心者でも取り組みやすい環境が整っていると思います。一方で社内コンペと言いつつも、実際には社外のレベルの高い方も参加されており、取り組む中で良い刺激を受けることができます。これからKaggleを始める方には、ぜひ社内コンペから挑戦することをおすすめしたいですね。



— Kaggleを通じて、今後挑戦したいことはありますか？

社内で実施されているコンペにとどまらず、世界中のKagglers (Kaggleに取り組む人) が参加する一般のコンペにも挑戦していきたいと考えています。参加者の上位10%に与えられるブロンズ以上のメダル獲得を、ひとつの目標にしています。

また業務面では、設備保全の領域において故障の予兆検知といったデータ活用にも取り組んでいきたいです。テーブルデータを扱うコンペティションなどの知見を、現場での実践につなげていければと思っています。